

## ■苦楽園の温泉の起源と終焉

明治39(1906)年、地主たちが現在の苦楽園中学校付近に明礬(みょうばん)温泉浴場を造りますが、交通の便が悪くすぐに廃れてしましました。その後、明治44(1911)年、大阪の中村伊三郎が本格的な温泉開発に着手し、阪神の豪商達が別荘を建て始めます。その頃、当時の知事が掘削を指示し、大正2(1913)年、通称天狗獄(アマテラス)にラジウム温泉を発見、共同浴場が開設されました。盛大な開業式には大隈重信が出席しています。また、当時発行されていた文芸誌「明星」の広告では「瑞西(スイス)ロザンの美景に酷似し、ラジウム温泉の大浴場あり」と絶賛されています。

やがて、文化人たちも移り住み、三笑橋(さんじょうばし)を中心に旅館、料亭、ホテルなどが立ち並ぶ温泉街に発展しました。昭和13(1938)年の阪神大水害で源泉は涸れましたが、「苦楽園」はその後も隣接する芦屋六麓荘とともに関西屈指の高級住宅地としてその名を馳せ、今なお豊かな緑に包まれた閑静な佇まいが残されています。



## ■苦楽園と文化人

温泉街から住宅地へと変遷した苦楽園は、多くの文化との接点があります。大正12(1923)年、苦楽園温泉の萬象館に滞在していた谷崎潤一郎、昭和8(1933)年から苦楽園に住居を構えていた湯川秀樹博士、昭和11(1936)年に苦楽園を訪ねその眺望を歌に託した与謝野晶子、平成5(1993)年までの晩年20年ほど苦楽園四番町に住んでいた黒岩重吾など、日本を代表する多くの文化人に愛された土地と言えるでしょう。

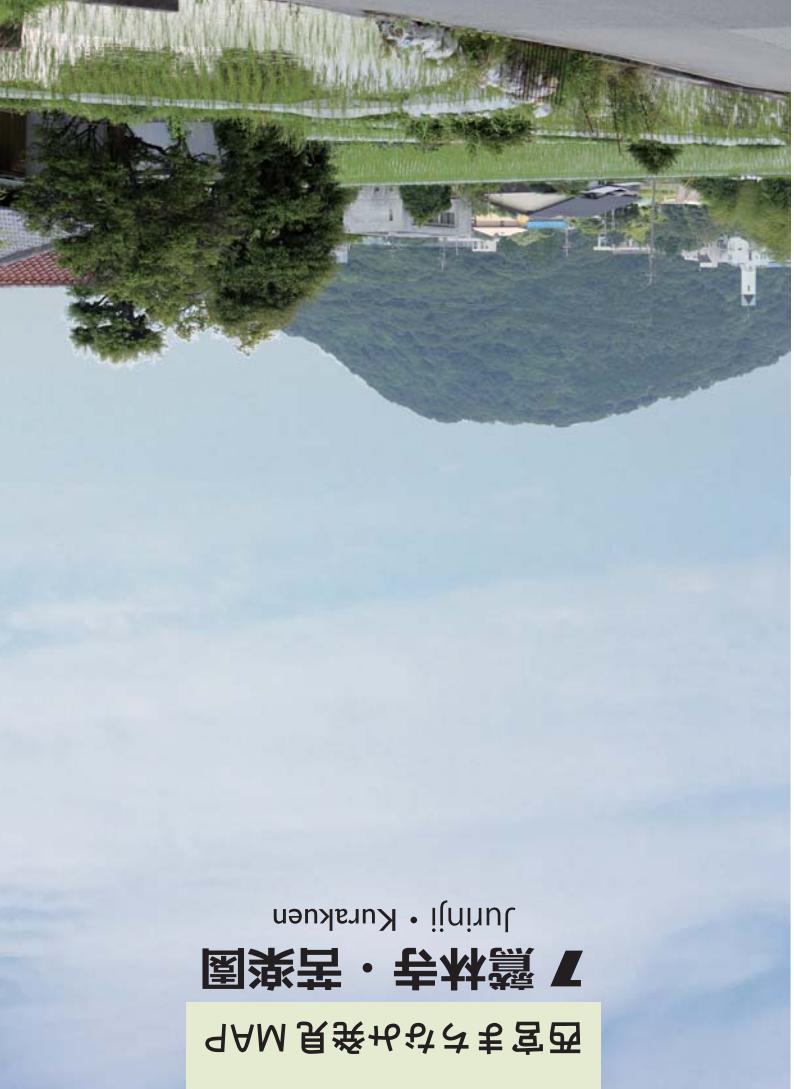
\*参考：月刊 神戸っ子「KOBECCO」2014.11号  
なお、西宮を舞台とした文学作品については、「西宮文学回廊」ホームページに詳しく紹介されています。(http://nishinomiya.jp/bungaku/index.html)

## ■苦楽園と湯川秀樹博士

湯川秀樹博士は、苦楽園に居住し、大阪帝国大学に勤めていた昭和9(1934)年、中間子論を着想し、学会で発表しました。その後昭和24(1949)年、42歳で日本人初のノーベル賞を受賞しました。市では、これを記念して昭和61(1986)年より若手研究者を対象とする「西宮湯川記念賞」を制定。また、苦楽園小学校校庭には「中間子論誕生記念碑」が建立されています。



\*参考：「湯川秀樹日記－昭和九年：中間子論への道－」小沼通二編(西宮湯川記念事業パンフレット)  
また、友と交流を深め、歌舞伎を楽しみ、文学に親しんでいた少し無口な博士の人柄を知るには、自伝「旅人－ある物理学者の回想－」が必読。



## 【西宮まちなみ発見 MAP】について

西宮まちなみ発見クラブでは、平成25年の活動として、西宮の歴史・自然・暮らしを感じる「景観みどころコース」を作成しました。その中から平成26(2014)年に5つのコース(1~5)を、27(2015)年には3つのコース(6~8)を選び、携行用の「西宮まちなみ発見MAP」として完成させました。

このMAPを片手に、西宮の魅力に触れてみてください！

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 甲陽園～廣田神社  | 5 山口町     |
| 2 西宮北口～甲子園口 | 6 阪神西宮～夙川 |
| 3 夙川～御前浜    | 7 鷺林寺・苦楽園 |
| 4 甲子園       | 8 鳴尾      |

○「視点場」：裏面地図上のこのマーク「視点場」とは、メンバーが見つけたオススメの景観が見えるベストポジションです。視点場は、誰でも近寄れる場所を設定しています。

## 【西宮まちなみ発見クラブ】とは

西宮まちなみ発見クラブは、公募による市民で構成されるクラブで、平成17(2005)年より活動しています。景観に関する情報の共有や意見交換を通じて西宮のまちなみについて考え、美しいまちなみづくりを目指す活動を行っています。

平成28(2016)年3月7日発行

企画・制作：西宮まちなみ発見クラブ

協力：関西学院大学 社会連携プロジェクト「西宮まちづくり」チーム  
西宮まちなみ発見クラブ事務局：西宮市役所景観まちづくり課(0798-35-3526)

## コース紹介

\*A、B、C各コースは、裏面の地図上に色分けで示しています。

かぶとやま荘から苦楽園口まで250m以上の高低差があり、総延長10kmを越えるため、街並みを楽しみながら通じて歩く場合は半日程かかります。そこで、バスを利用した2時間以内で歩けるコースを3つ設定しました。ただし、どのコースも坂道が続くので、運動靴で歩くのをおすすめします。秋冬には上着も忘れずに。

### A 自然に親しみ、眺望を楽しむコース

#### －社家郷山～かんのん道～シトー会～鷺林寺－

かぶとやま荘から社家郷山キャンプ場、大沢西宮線を下って鷺林寺の交差点から鷺林寺へ向かうコース。社家郷山キャンプ場の開園は土日のみですが、山歩きはいつでもできます。また、鷺林寺に向かう、かんのん道の道標からは山道です。

\*アクセス：行きは、さくらやまなみバスで「かぶとやま荘」バス停へ、帰りは、大沢西宮線に戻り、「鷺林寺」バス停を利用。

### B 郊外住宅地を巡るコース

#### －湯元町～鷺林寺南町～北山緑化植物園－

カフェやレストラン、工房などが点在する湯元町、鷺林寺と、邸宅街の趣向を凝らした建築を楽しむことができる鷺林寺南町、昭和40年代に整然と開発された剣谷町・柏堂町の住宅街を巡り、北山緑化植物園へ。

\*アクセス：行きは阪急バスの「甲山高校前」バス停へ、帰りは、植物園の入口前の「柏堂町」バス停を利用。

### C 苦楽園温泉を想像するコース

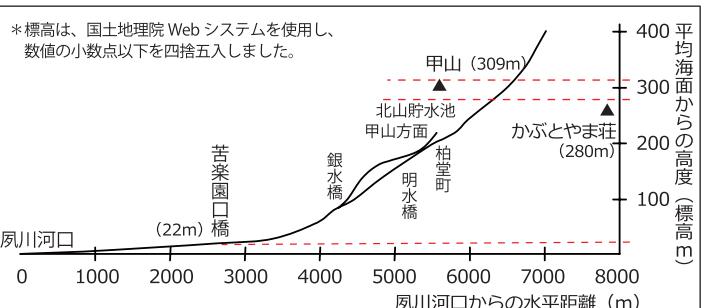
#### －柏堂町～苦楽園五番町～苦楽園口－

大正時代から昭和初期にかけて賑わった苦楽園温泉跡や湯川秀樹博士を中心とする著名人ゆかりの地を巡るコース。甲陽学院の西側を下るオプションコースでは、越木岩神社に寄ることもできます。

\*アクセス：阪急または阪急バスの柏堂バス停からスタートすると眺望が良い。

#### ●コースの標高差

\*参考：夙川の縦断曲線「続西宮の自然」より



## ■苦楽園口駅周辺を歩く

苦楽園口駅から歩いていると、お洒落なカフェ、パン屋、割烹、セレクトショップなどを数多く発見することができます。これらのお店は高級住宅街に点在しているので、何度も歩くたびに、以前には気づかなかつた新しいお店を発見できるという楽しさがあります。さらに北へと上って行くと背景に甲山を望むことができ、これも苦楽園を歩く上で欠かせないポイントとなります。



「苦楽園」という土地の名前は、苦楽園を開発した人物である中村伊三郎の家宝の瓢箪の名前「苦楽瓢」が由来であるとされていますが、対義語とされる「苦」と「樂」の2単語が一語の中に含まれているというは非常に謎めいた印象を受けます。しかし、閑静な住宅街としての「樂園」という一方、急な坂が多いことから「苦」と感じられるといった2つの特徴を考えれば、苦楽園という街をユーモラスに表現した名前であると考えられるのではないかでしょうか。

## ■鷺林寺(じゅうりんじ)

鷺林寺町交差点を西に、かんのん道をたどって暫く急な坂道を登るとやがてシトー会修道院の門前を通り鷺林寺に至ります。ここ鷺林寺はその昔弘法大師空海が観音靈場を開く旅の途中この地を教示され入山したところ、ソランジンと呼ばれる神が大鷺に姿を変え大師の入山を阻止しようとした。大師は大鷺を桜の靈木に封じ込め、その木で十一面觀音を刻み龐荒神(そらんこうじん)としてまつり、寺号を鷺林寺と名付けました。盛時は70坊以上を数え広大な寺領も有していました。しかし荒木村重の乱が勃発し、織田信長にすべて焼き払われました。その時に本尊を甕(かめ)に入れて地中に埋め、僧侶はトンネルを掘って有馬温泉に逃れたと言われています。昭和に入ってようやく復興され現在に至っています。



境内には第5回西宮市都市景観賞まちなみ建築賞を受賞したトイレがあり、小規模ながら和と洋のデザイン要素を巧みに取り入れた静かで落ち着いた雰囲気をかもしています。トイレを気持ちよく使用できるのは、前の方方が綺麗に使用されたからということで、『説法のできる公衆トイレ』にしたいという願いから、言葉を短冊に書き、皆に読んでいただけるよう工夫されています。

\*参考：鷺林寺ホームページ、鷺林寺住職へのインタビューより

## ■夫婦岩と夫婦池と夫婦橋(めおといわ めおといけ めおとばし)

鷺林寺参道には「夫婦岩」の他に「夫婦池」と「夫婦橋」があり、この3つの夫婦を通って鷺林寺に参詣したと言われています。この3つの夫婦を見て、縁結び・夫婦円満を祈願されたものと思われます。



この夫婦岩には不思議な言い伝えがあります。昭和に入り、県道の拡張工事が行われるに際し、交通の妨げとなるため岩を爆破することになりましたが、爆破前日、工事関係者に不幸な出来事があり中止されました。その後再び爆破しようとしたところ、同じような不幸がまた起ったといわれています。それ以来「夫婦岩」を爆破しようという計画はちちあがらなくなりました。考えようによっては「夫婦岩」のあたりはまっすぐの道から急に大きなカーブとなる場所で、「夫婦岩」があることで減速しかえって事故が少ないかもしれません。悪いように考えれば邪魔になる岩も、良い方向から見れば大切なありがたい岩と言えます。

\*参考：鷺林寺ホームページ

## ■昭和初期の風景が残る越木岩地区

甲陽学院の南西にある階段の通学路横には、国土交通省近畿地方整備局の六甲グリーンベルト事業整備地「愛称」健児の森があります。健児の森は、自然環境を壊さないという思いから、オーナーが開発業者の話を退け国に託されました。その森のかつてのオーナーを、毘沙門町の餌岩文芸荘・遊楓亭に訪ねました。



大正9(1920)年建築の住宅をこの地に移築された昭和9(1934)年、周辺には越木岩神社と棚田が広がるのみで、夙川駅や大阪湾が見渡せたそうです。現在、オーナーは母家で短歌を詠み、息子さんが離れをレンタルスペースとして開放し、80年前と変わらぬ風景を維持するためにお屋敷を使い続けることを模索しています。ここを通過するとき、この佇まいに感動すること間違いなしです。

\*平成27(2015)年11月、餌岩文芸荘・遊楓亭にてインタビュー。



## 1 かぶとやま荘からの眺望 /越水字社家郷山

六甲山系の東端「社家郷山（社家郷とは西宮神社を守る家々という意味）」周辺には保養所やキャンプ場などがあり、豊かな自然環境とのふれあいを楽しむことができます。また「社家郷山」周辺は、眼下に西宮のシンボル「甲山」や阪神間を眺望できる絶景ポイントのひとつです。



## 3 鷲林寺とかんのん道/鷲林寺町

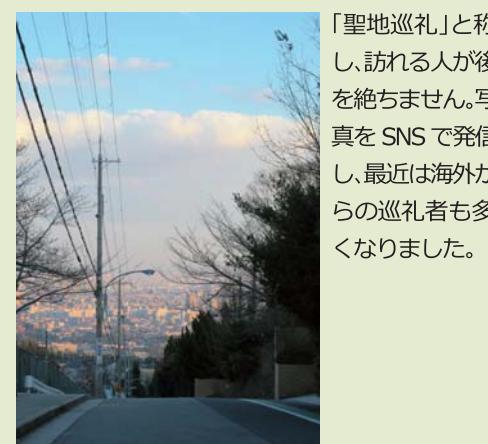
鷲林寺の交差点から西へ、かんのん道の道標から山道に入り、少し歩くと途中にシト一會西宮の聖母修道院があります。夫婦池の北側から昭和44(1969)年にこの地に移転、村野藤吾氏の設計によるものです。見学は要予約ですが、予約なしでも入口売店まで入ることができます。ここから階段を上がりきると鷲林寺があります。(鷲林寺の詳細は表面を参照)

帰り道のかんのん道から甲山が望めます。



## 5 ハリヒロードからの眺望 /苦楽園二番町

西宮を一望できる西宮北高等学校正門前の道路は、アニメファンから「ハリヒロード」と呼ばれています。同校出身の谷川流の小説（ライトノベル）がアニメ化され、市内各所が登場することから、甲陽園駅、北高、樋之池公園などを



## 2 湯元町/湯元町

北山緑化植物園の北、甲山高校バス停前の横断歩道を渡ると閑静な住宅地、湯元町の入口があります。用水路の意味を持つ「ゆ」に仁川上流の水を社家郷村に引く用水路としての「湯ノ口」から湯元町と呼ばれています。10数所帯の小さな街に点在するカフェやレストランからは、宝塚～大阪平野を一望できます。自然に囲まれた中でゆったり眺望を楽しむのはいかがでしょう。



## 4 西宮市北山緑化植物園/北山町

いつ訪れても四季おりおりの花や木々の新しい発見がある庭園で、多年草を使った花壇が充実しています。園内の散策等をお楽しみ下さい。

健脚の方は、ここから北山貯水池、甲山を巡り阪急甲陽園駅に至るルートもあります。入口前に柏堂町バス停があります。



## 6 苦楽園みはらし公園からの眺望 /苦楽園二番町

標高約190mの北高から「ハリヒロード」を下り、住宅街を抜けたところにある苦楽園みはらし公園からも西宮が一望できます。ここからの坂道も急で、かつて苦楽園温泉の旅館が点在していた界隈に一気に下りていきます。

ノーベル物理学賞受賞の湯川秀樹博士の旧居、三笑橋、苦楽園市民館を過ぎると、ゴールの苦楽園口駅がもう間近です。



## 7 苦楽園口橋からの眺望/石刎町

阪急苦楽園口駅を出ると直ぐに夙川に架かっている苦楽園口橋があります。平成7(1995)年の阪神淡路大震災で壊滅的な打撃を受け、2年後に再建されて現在の姿になっています。この橋の中央パレコニーから眺める夙川の景色は絶景で、春は松の緑と満開の桜の向こうに西宮のシンボルの甲山が見えます。また秋には紅葉した桜と松の緑のコントラストが絶妙です。市民の憩いの場である夙川公園の中心的な存在となっています。



### 1~7 景観みどころポイント

- A まちあるきコース
- B 歩行者専用道路
- C 視点場
- バス停
- 公園
- ベンチ
- トイレ
- コンビニエンスストア
- ガソリンスタンド
- レストラン・カフェ